

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500099		
法人名	有限会社ケアつかさ		
事業所名	グループホームコスモやよい		
所在地	大分県佐伯市弥生大字山梨子828番地		
自己評価作成日	平成23年7月1日	評価結果市町村受理日	平成23年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490500099&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古園府巻番館 1F
訪問調査日	平成23年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は自然に恵まれた環境の中に建ち、入居者は自分のペースに合った時間で過ごしています。開所して4年経ちましたが、入居者が健康で穏やかに暮らしていくためには、職員も環境の一つであると認識しながら日々の介護に取り組んでいます。ホームの入居者は明るく、お互いが思いやり、譲り合い、助け合う姿が見られ、職員と一緒によく話をしています。私達は、入居者と喜怒哀楽を共有し、個々の気持ちに寄り添いながら居心地のよい、安心して暮らせる場を作り、入居者と家族、職員間のより良い関係が築いていけるように努めています。また、地域とのつながりを大事にして、事業所としてできることを柔軟に対応していきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑一面が、目に優しく語りかけるなど、思わずホッとする光景など自然環境に恵まれ、心身ともにリラックスできる快さを体感できると共に、利用者一人ひとりに挨拶を交わす中で、ここで生活できて良かったという、満足感が伺えるなど利用者を主体として取組みがなされているようでした。また対応する代表者、職員の礼儀正しさ、やさしさ、相手を重んじる姿勢が支援する場面々々感じ、理念に基づいたケアが行われていることを再確認する事ができ、特に要望・意見への対応には、いやな顔せず積極的に取組む姿勢が見受けられました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を玄関と事務所に掲示しています。毎朝朝礼時に理念を復唱することで認識を深め、職員会議等で理念の大切さに触れて、日々の介護につながるよう努めています。	地域や利用者のニーズ、事業所の状況の変化によって、現状にあった理念に作り変えるなど工夫がされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方とは、外で出会った時に挨拶を交わしたり、話をしたりしています。ホームの敷地内や駐車場で子供や親子が遊ぶ姿も見られます。	地域との交流を事業所が必要な時に、行うだけでなく、ともに暮らす地域の一員として、地域で必要とされている活動に取り組みされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏休みに近所の中高生がボランティア活動に来てくれました。感想を聞くと、お年寄りと触れ合い、いい経験になったと言います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告や入居者の生活の様子などを報告しており、参加者に意見をもらうようにしています。	2ヶ月に一度積極的に取り組み、日頃の活動内容は勿論ですが、自己評価、外部評価、改善点など会議の中で話し合いがされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に、市の地域包括支援センターの職員に参加してもらい、行政面からの意見を聞いています。困難事例を相談したりします。	介護保険係や包括支援センターなどに事業所の実態を知って頂くための機会を作られていると共に利用者の暮らしぶりや、ニーズを伝えながら連携を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会に参加したり、ミーティングで事例を交えて話し合いをしたり、職員が身体拘束をしないという意識を持ち介護に取り組んでいます。	本人の不安や混乱を寄り添うケアにより少なくされ、また利用者が外出を望む時は、引き止めることなく、安全な外出支援に取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を受けた後、職員に周知して、認識を深めて介護をするように努めます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護の研修を受けた職員から情報を得て、それが必要なケースが生じた場合には、関係者と話し合い支援できるように努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族に契約書を渡して内容を説明しています。入退院時の対応や利用料など家族の不安や疑問点については、十分に説明をして、署名、捺印していただきます。入居後に生じた不安事にはその都度説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置していますが活用されていません。家族には、面会時に何でも言ってもらえる雰囲気作りができるように努めています。	介護保険係など外部の人に家族等が意見・要望を伝えることが出来るなど常に説明をなされています。また、家族との面会の時など意見が出やすいように配慮されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、職員からの意見や要望を聴くように努めていますが、把握できていない部分もあります。代表者に報告して、運営に反映できるように努めています。	代表者・管理者は、ミーティング等通じながら、積極的に現場の意見を聞き、利用者のニーズに反映できるよう取組みがなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は事業所に立ち寄り、職員の勤務状態を把握して、意見を聴いたりして、向上心を持ち働けるように環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格所得のための講習や研修会の参加のため、勤務調整をしています。各研修会の案内を掲示して、希望者にはなるべく参加できるように配慮しています。また、研修報告書を書いてもらっています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会等で他の施設の職員と情報を交換したりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談して、要望や困り事をよく聴いて本人の思いを受けとめるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時に施設に来て頂いて、家族の心配事や困り事、要望などを傾聴するように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に関わる相談で、本人や家族の意向を聴きながら何が必要かを見極めて、事業所としてできるかぎりの対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の喜怒哀楽に共有しながら一緒に過ごすように努めています。介護する側、される側という意識を持たずに声かけして、穏やかな場面作りができるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に間に入り、一緒に話をしたり、ホームでの暮らしぶりを伝えています。家族と一緒に過ごす時間を大切にさせて頂けるように配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に偶然知人に会うこともあり、話ができるように傍で見守っています。行きつけの美容院に家族が連れて行ってくれる方もいます。	認知症の状態が酷くなり、解り難いときもありますが、今までの生活の延長として、親戚・知人・友人へ会いに行く支援などに取り組まれ、また継続ができるようになされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者間の人間関係を把握して、皆が楽しく過ごせる場面作りをしたり、言葉かけや関わりをしています。ソファに座って仲良く話をしたり、お互いに譲り合い、思いやる姿も多く見られます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に会いに行ったりします。外で偶然家族に会うこともあり、近況を交えて相談に乗ることもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思いや希望など、どのように暮らしたいかを傾聴して把握するように努めています。意思表示の困難な場合には、家族から聞いたり、本人の表情などからくみ取るように心がけています。	本人がどのように暮らしたいか、日頃何をしたいのか、誰と過ごしたいのかを日々のケアの中で感じ取り、理解するための話し合いが積極的に取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から生活歴等について聴き取るようにしています。入居後も本人に聴いたり、家族の面会時などから少しずつ把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の暮らし方や生活リズムを把握して、本人に合わせた介護ができるようにしています。本人のできることを活かせるような関わりができるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聴いて、介護計画を作り、職員間のケース会議で話し合うようにしています。	本人の状態に変化が見られたり、本人・家族の意向が変化した時は、介護計画を変更できるモニタリングやカンファレンスができる体制に取り組まれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に日常の生活の様子や気づき、状態の変化を記録して、情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の家族の状況、希望に応じて外泊や外出、通院等柔軟な対応ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の振興局に選挙の期日前投票に行ったり、公民館でのイベントの誘いがあったりして参加するようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人が希望するかかりつけ医で受診するようにしています。訪問診療に来てもらうケースもあります。受診時には職員が同行して主治医との連携に努めています。	家族、本人の希望が施設の協力医療機関となっており、緊急時以外にも訪問診療など密接な関係づくりがなされています。受診結果についても医師、家族、職員間で共有がはかられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤で看護師を配置して入居者の健康管理を行っています。記録や話し合いをもとに、介護職との情報の共有に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院の医療連携室と連絡を取り合いながら、状況の把握や退院の調整をしています。また、入院先に面会に行くことで状態を確認するようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族は重度化や終末期の対応について不安に思っています。面会時には普段の病気の状況や様子を伝えていますが、施設でできる対応についても家族と話し合うようにしています。	入所時に家族の方と事業所が対応し得る最大のケアについて確認がなされています。現在看取りは行われていませんが、今後の検討課題とされ、積極的に取り組まれています。	終末期における協力医療機関との連携の在り方や職員相互のチームワークに取り組み、いまを生きる看取りへの指針の策定に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時や事故発生時の対応について、職員の実践力を身につけていくようにしたいです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年1回、防災訓練を実施しています。昼夜問わずに、いざという時の避難誘導や支援体制を整えるように努めていきたいです。職員だけの限界を踏まえて、運営推進会議で地区の方に災害時の協力支援をお願いしています。	消防署の協力を得て、年1回の防災訓練を実施しています。運営推進会議を積極的に活用し、地域への呼びかけと相互の協力関係づくりに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の喜怒哀楽に共有しながら一緒に過ごすように努めています。一人ひとりの人格を尊重した呼びかけや言葉かけをするように心がけています。	日常の支援はご本人の気持ちを大切に自己決定しやすい言葉かけをしています。個人情報に関しては収集する際にも提供する際にも守秘義務の理解を徹底し、慎重に取り扱うようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活する中で、可能な限り自己決定ができるように場面作りをしているが、職員側の都合で実践しきれていない部分もあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分によって、起床や就寝時間、食事量、過ごし方等変わりますが、無理強いしないように本人に合わせています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには気をつけており、いつも清潔な衣服を着ています。散髪をする際にはその人に似合う髪形になるよう、本人と話し合いながらしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節により、ホームで採れた野菜を使い、楽しんでいます。野菜の皮むきや下ごしらえなど手伝ったり、茶碗を洗ってくれたりします。	食事は事業所内で作り、利用者さんの希望を取り入れた献立となっています。餃子、団子、野菜の皮むきなど利用者さんに手伝っていただき、食材の手触り、香りから食事を楽しみ、食欲増進へとつなげています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックシートで食事摂取量、水分記録表で1日の水分量を記録して把握できます。飲みたがらない方には本人の好みのものを飲んで頂いたりして、十分な水分が摂取できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして頂くように声かけ、誘導します。自分でできない時には手伝います。義歯はその都度外して洗い、就寝時には水につけて保管します。週1回、義歯洗剤を使用します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを活用して、その人の排泄パターンを把握して、声かけや誘導しています。なるべくトイレで排泄できるように、本人の尿意のサインを見逃さないようにします。	個々の排泄パターンを把握し、トイレに座って排泄する支援を行っています。失禁時には自尊心を傷つけないように配慮した声かけを心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や便秘予防のため野菜や食物繊維を多く取り入れた食事ができるように努めています。排便を促すために、腹部マッサージをしたり、下剤を飲んでもらうこともあります。排便表に記録して状況を確認しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回入浴日があります。入浴を拒む場合には、言葉かけや入浴時間の配慮をしてタイミングよく入浴できるようにしています。	ユニット毎に曜日で分かれています。本人の希望により、入りたい日に入浴していただいています。入浴が出来ない時には清拭を行い、体の状態の確認や清潔保持を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように、居室内の温度調整をしたり、本人の希望に添って休んでもらいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には名前を確認して、間違えのないようにします。その人に合った服薬の仕方があり、きちんと飲み込むまで確認しています。薬が変わった時には症状に変化がないか様子を見守っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の草むしり、野菜の皮むきや新聞折り、また洗濯物をたたんだり、裁縫してもらったりしています。行事や季節に合った食べ物で楽しめるようにしたり、好みの飲み物を聴いて飲んでもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見やドライブなど、外出できる機会を作ったり、少人数で近所に散歩に行ったりしています。本人の希望で、衣服や雑貨、食料品などを買いに行くこともあります。	体調や天候に配慮し、地区の行事や買い物、散歩などのほかに一人ひとりの習慣や楽しみにあわせた外出をしています。また施設周辺の散歩では、地域の人とのコミュニケーションの場として楽しみの1つとなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の所持金を持って自分で管理している方がいます。必要な買い物がある時には、職員に頼んだり、一緒に買いに行ったりします。自分でお金を払っていますが、様子を見守っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけることはありませんが、遠方に住む家族からの電話があったり、手紙が来たときには取り次いでいます。懐かしそうに話をしたり、嬉しそうに手紙をよんでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所はいつもきれいに整理整頓され、清潔にするように心がけています。居間には畳の間もあり、座って洗濯物をたたんでいます。台所から食器の音やごはんの匂いなどがして、いい匂いに「お腹がすいた」と言う声があがります。	一日の大半を共用空間で過ごしており、自然と集まってくる様子がうかがえます。ユニット毎に季節の飾りつけや行事の写真、また外来者から地域イベントなどのポスターも提示され、自分の居場所を感じながら地域との交流の場所となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファとテーブルがあり、一人で過ごしたり、気の合う入居者同士でくつろぎ、話をしたりしています。自分の位置がだいたい決まっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には整理たんすとベッドを設置しています。使い慣れた物品を持ってきて使っている方もいます。	居室には使いなれた家具や座椅子、家族の写真などがあり、実家にいるような雰囲気づくりへの配慮が行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームはバリアフリーで、廊下やトイレ、浴室には手すりがあり安全に生活できるようにしています。混乱が生じた場合には、職員が関わり対応しています。		